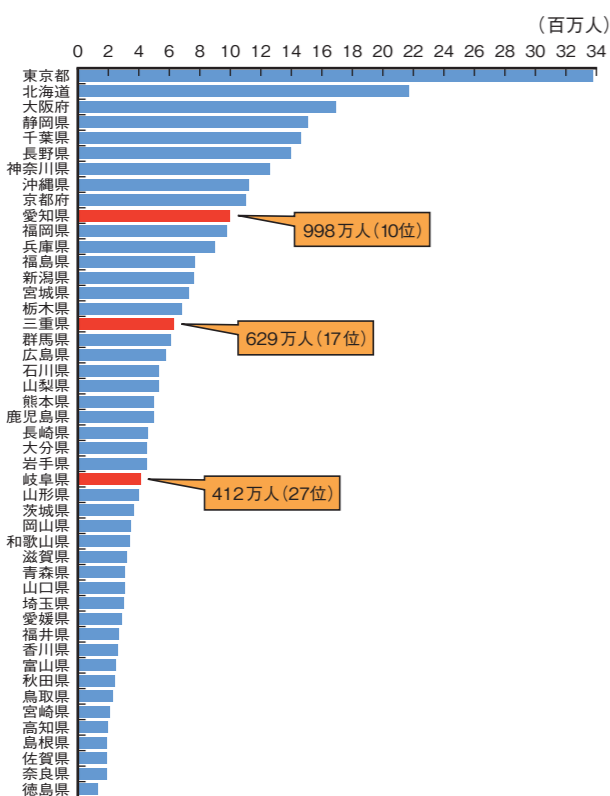




データでみる中部のすがた

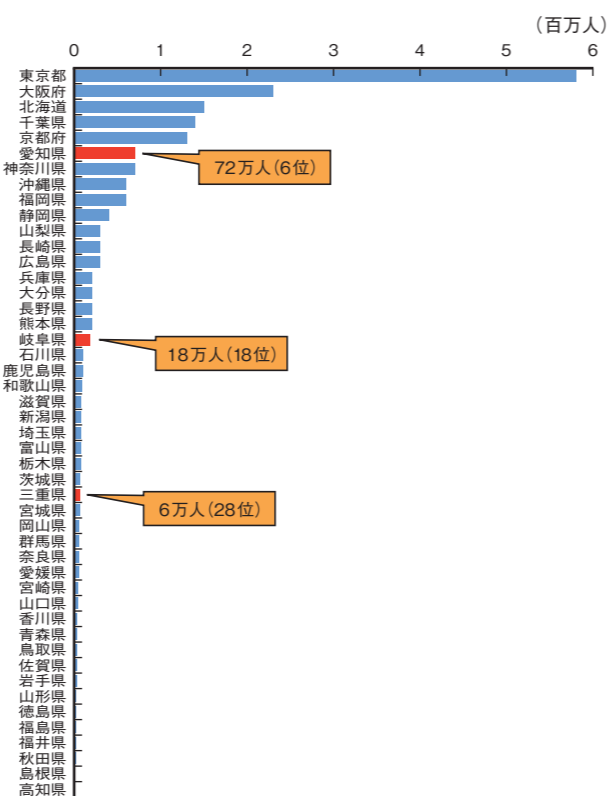
中部圏における広域的な観光振興に向けた取り組み

図表1 延べ宿泊者数の状況（都道府県別）



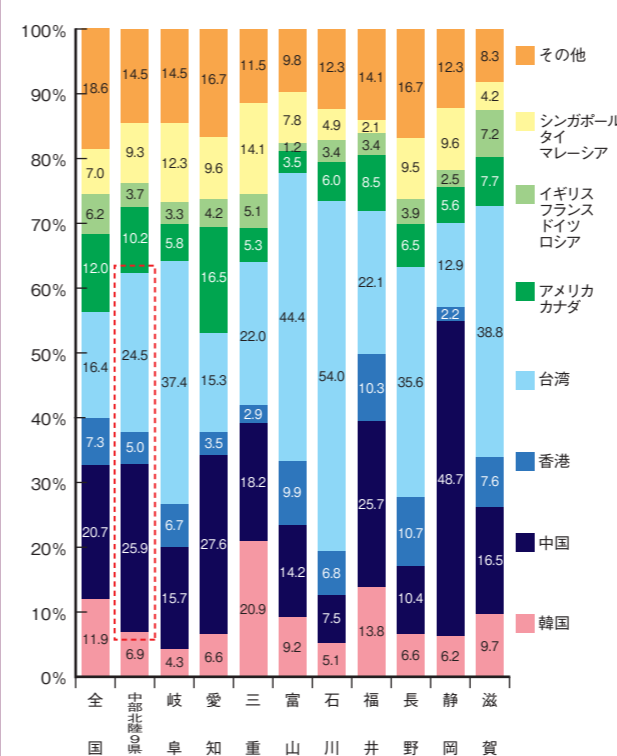
(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」
(注) 数値は2012年における第3四半期(1-9月)までのもの。

図表2 延べ外国人宿泊者数の状況（都道府県別）



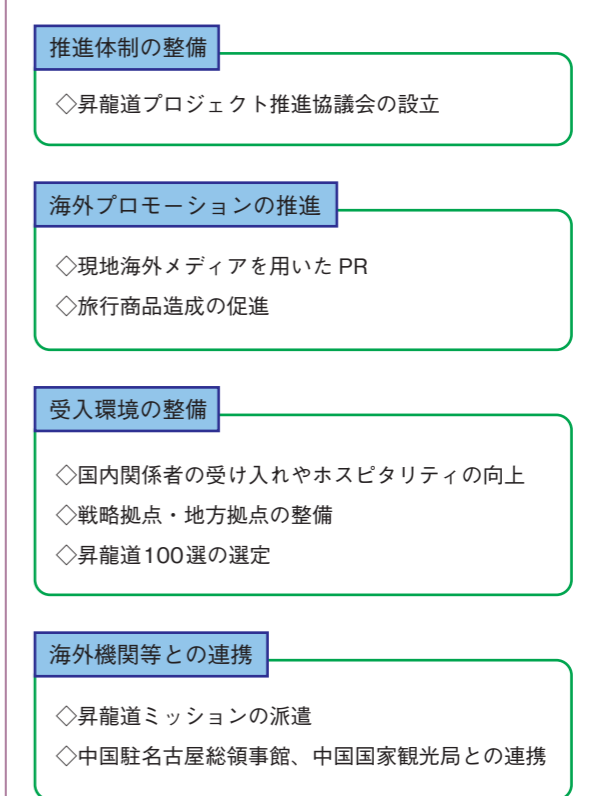
(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」
(注) 数値は2012年における第3四半期(1-9月)までのもの。

図表3 外国人宿泊者数の国籍別割合（都道府県別）



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」
(注1) 数値は2012年における第2四半期(1-6月)までのもの。国籍不詳除く。
(注2) 中部北陸9県とは岐阜、愛知、三重、富山、石川、福井、長野、静岡、滋賀の中部広域観光協会を構成する9県を指す。

図表4 昇龍道プロジェクトの展開



(資料) 中部運輸局資料から三重銀総研作成

1. 中部圏における宿泊観光の動向

- 企業の海外進出加速に伴い国内産業の空洞化が懸念されるなか、地域経済活性化への寄与が期待されると共に、裾野が広く他産業への波及効果が期待されることから観光振興の動きが活発化しています。政府は2008年に観光庁を設置し、観光立国を旗印に高齢者需要の取り込みやグローバル化の流れを観光に活用するための施策を打ち出しています。
- 中部圏は従来から製造業が地域産業の中心となっており、観光面でのウェートは全国でも大きくありません。観光庁の統計により2012年第3四半期(1-9月)までの都道府県別の宿泊者数をみると(図表1)、中部3県はランキングにおいて、愛知県が10位、三重県が17位、岐阜県が27位となっており、全国シェアは3県合計でも6.4%となっています。この数値は、製造業の出荷額シェア18.3%(2010年工業統計調査)はもちろんのこと、中部3県の人口シェア8.9%(2010年国勢調査)からみても、かなり低いものにとどまっています。
- また、今後の観光客の大きなターゲットとして捉えている訪日外国人客の宿泊動向を同統計からみても(図表2)、愛知県が6位、岐阜県が21位、三重県が24位で全国シェアも3県合計で5.2%にとどまるなどさらに低い状況となっています。

2. 訪日外国人客の取り込みに向けて

- こうした状況下、中部圏では各地域が独自に誘客活動を進めるだけではなく、それぞれの地域が広域的に連携することでより魅力的な観光ルートを提供する動きが進められています。これを具体化する取り組みとして、2012年には中部圏のみならず、北陸圏とも連携した中部北陸9県(愛知、静岡、岐阜、三重、長野、滋賀、石川、富山、福井)において中華圏(中国、台湾、香港など)からの誘客を推進する「昇龍道プロジェクト」が立ち上がりました。
- この背景には中部北陸9県を訪れる外国人客(国籍不詳除く)のうち中国、香港、台湾など中華圏からの宿泊者数の割合(55.4%)が全国(44.4%)に比べて10ポイント以上高いなど、従来より中華圏からのウェートが高いことなどが挙げられます(図表3)。
- 「昇龍道」というネーミングは中部圏の観光ルートを中華圏で人気のある龍の形に見立てて付けられています。2012年後半以降は日中関係の悪化により中国からの観光客が減少しているものの、国内における推進体制や受け入れ体制の整備に加え、中華圏における現地機関との連携や積極的なプロモーション活動により長期的な視点での推進活動が進められています(図表4)。

別府 孝文

データでみる中部のすがた

データでみる中部のすがた